

「若狭湾 ^{うみ}海湖の自然学校」

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
16	19	16	16 (福井3・愛知3・京都3・大阪3 石川2・滋賀1・奈良1)

2. 事業内容 (概要)

◆ねらい

- ・長期宿泊体験を通して、仲間の協調性を養うと共に、活動意欲を向上させる。
- ・自然に直接触れ合う活動を多く取り入れることにより、遊び心を刺激し、前向きに挑戦する姿勢を育てるとともに、自然環境に対する畏敬の念を育て、郷土の自然に誇りをもたせる。
- ・海・湖を様々な角度から体感することを通して、広い視野を持った豊かな人間性を育てる。
- ・当施設のフィールドを広く工夫活用し、一般利用団体にも広く普及することを目指す。

◆期日・期間

平成28年8月14日(日)～8月20日(土) <6泊7日>

◆後援・協力団体

共催：総合型地域スポーツクラブわかさ 福井県里山里海湖研究所 福井県立三方青年の家
 協力：美浜町教育委員会 若狭町教育委員会 社会福祉法人西田福祉会
 後援：福井・岐阜・愛知・滋賀・京都各府県教育委員会

◆参加者分析

- ・地元福井をはじめ、広範囲(中部・関西・北陸)から19名の応募があった。
- ・事業の内容をふまえ、年齢・性別のバランスを考慮した上で参加者を抽選した。
- ・申込書類に作文を課したことで、活動意欲の高い応募者が集まった。
- ・暦の関係でお盆休みと重なったためか、応募者数が例年より少なかった。

◆企画のポイント

月 日	内 容	宿泊場所
8月14日(日)	始まりの式 オリエンテーション、仲間作りなど	若狭湾青少年自然の家
15日(月)	三方五湖サイクリングと海湖の学習(自転車30km)	若狭湾青少年自然の家
16日(火)	シーカヤック練習と出発の準備	県立三方青年の家
17日(水)	シーカヤックで湖を探検(10km)、野外炊事	北西郷公民館(テント泊)
18日(木)	シーカヤックで海を探検①(17km) 野外炊事	岬保育所(テント泊)
19日(金)	シーカヤックで海を探検②(8km) キャンプファイヤー	若狭湾青少年自然の家
20日(土)	ふりかえりの梅丈岳登山 終わりの式	—

- ・サイクリング、シーカヤック、登山をベースに挑戦型のプログラムを設定した。
- ・「自立」をキーワードに、7日間の指導に一貫性をもたせた。参加者が自分たちの力で行程を進めていけるよう、指導者は“手をかけずに目をかけ”、ゆとりある時間配分に心がけた。

◆運営のポイント

- ・長期移動型のキャンプとなることから、初めの3日間でメインプログラムの中で必要となる技能の習得と、そこで必要となるチームワークの形成に努めた
- ・日々のふりかえりの時間を十分にとり、活動目標に継続性をもたせることで、参加者の活動意欲を段階的に向上させた。
- ・海、湖、山での活動を立体的に組み合わせる段階を踏んで活動フィールドを広げていくこ

とで、理解しやすい内容構成とした。

- ・ ログ形式でその日の内容を毎日発信したことで、保護者の反応をダイレクトに掴めた。
- ・ 主体性を重視して支援にあたり、やらされているのではなく、自分たちの力でプログラムを進めていると感じられるようにした。

◆安全管理のポイント

- ・ 関係機関との連携を密にし、常に最新の情報を入手することで、安全面の配慮を図った。
- ・ 海、湖の活動では、命に関わる事故・けがが十分考えられるため、経験を十分に積んでい専門家に指導・助言いただき、的確な状況判断と参加者の安全管理につとめた。また、海陸ともに十分な監視・搬送のバックアップ体制を敷き、万が一の事態に備えた。

3. アンケート結果

(1) アンケート

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	69%	25%	6%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	50%	37%	13%	0%
この事業の運営はどうでしたか	56%	44%	0%	0%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

(2) 参加者の声（事後アンケートより）

- ・ シーカヤックが3日間完走できてよかった。もっと泊まりたかった。
- ・ シーカヤックが思ったより距離が長くてハードだった。友だちがふえた。
- ・ 楽しく、自然や感動を学ぶことができてすごくよかった。
- ・ いろんな人に電話をできるようになって、だれとでも話せるようになった。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・ 共催団体より講師・スタッフを派遣していただいたことで安全性を高め、学習内容を深めることができた。2回に渡る里山里海湖研究所の研究員による講義では端的に湖の特長を掴む事ができ大変有意義であった。また、湖でのカヤックにおける三方青年の家の助力で安全管理面でも万全の体制を取る事ができた。美浜・若狭両町の教育委員会の協力を始め、鳥浜漁協との調整など渉外面で総合型地域スポーツクラブわかさのお世話になった。様々な機関と連携を取らせていただくことで事業運営をスムーズに進めることができた。
- ・ 天候に左右される野外活動の中で、自然に抗わず、ありのままを受け入れていく事で、自然に対する畏敬の念を育む事ができた。さまざまな場面で個々の力では乗り切ることが難しいことを感じる事ができ、支え合うことの大切さを学ぶことができた。
- ・ 10名のボランティアが「手をかけず目をかける」の意図を理解し、適切な支援をしてくれたおかげで、参加者の心理面にとって良い影響があった。
- ・ 活動に軽重をつけ、時間にゆとりをもたせたことで、参加者が自分たちでスケジュールを把握し、主体的に行動することにつながった。

(2) 課題

- ・ 今後この事業の方向性をどうしていくかを明確にしていく必要がある。冒険プログラムとして打ち出していくのか、楽しい自然体験としていくのか。現時点では冒険プログラムとしての要素が強いが、海における挑戦型プログラムは荒天時の対応が難しいという講師からの指摘もあり、今後は、自然体験を軸とした方向へとシフトしていく可能性がある。その際は、地域資源を活かすことができるよう、関係各所に対して協力依頼をする必要がある。
- ・ 天候によって参加者への負担が大きく異なる。昨年度、今年度のようにある程度恵まれていれば、参加者も自然を満喫することができるが、そうでない場合は行程の変更も含めて活動の制限が大きい。天候に恵まれなくても、ねらいを達成できるような荒天プランを考えていく必要がある。

【1日目】



アイスブレイク



7日間がんばるぞー！



テント設営の練習

【2日目】



朝のつどい



三方五湖についての講義



三方湖の塩分濃度を確認



サイクリングスタート



久々子湖の塩分濃度を確認



30km 走破！

【3日目】



大瀬さん・久我さんとの出会い



海に慣れる



パドル操作を身に付ける



カヤックの特性について学ぶ



カヤックに慣れる



青年の家に移動

【4日目】



カヤックの旅に出発！



浦見運河を抜けて



ペアとの呼吸も合ってきた



海水浴を楽しむ
【5日目】



野外炊飯カレーづくり



テント完成



いよいよ海へ出る



チームでまとまって進む



いろいろな人に出会った



無人浜でスノーケリング

【6日目】



2回目の野外宿泊



じっくりと振り返り



カヤック最終日出発



無人浜で海に飛び込み



あと少しで自然の家



全員無事にゴール！

【7日目】



大瀬さん・久我さんとお別れ



思いを語ったキャンプファイヤー



梅丈岳登山



カヤックの旅を山頂から一望



閉講式